



9月1日に開院を迎えた県立山田病院

震災による様々な要因から事業実施を凍結していた学校給食センター

◆学校の建設

◆学校給食センターの建設
震災による様々な要因から事業実施を凍結していた学校給食センター

きる「健康寿命」が大切であります。住み慣れた地で健やかに過ごすことは、町民誰もの願いであり、その環境を整えることは、重要な責務であると認識しております。

被災以降、町民が待ち望んでいた入院機能を持つ県立山田病院が本日、再建し開院を迎えまして、その機能を発揮していた

だくことを期待するものです。

老後の不安やご家族の介護の負担を軽減できるよう、地域と行政が一体となって、必要とされる人に、より適切な支援が行き届き、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるように、地域包括ケアシステムの構築を目指します。

「子ども・子育て支援新制度」に基づき、幼児期の教育や保育

地域の子育て支援

を建設いたします。建設場所は前回計画と同じく、山田中学校敷地内であります。町の将来を担う子どもたちが心身ともに健やかに育つことと、食事に関する正しい知識の習得など、給食を生きた教材として活用し、効果的で望ましい食育を推進してまいります。建設に当たっては、今後、町民グラウンド仮設住宅の撤去等との調整を図りながら進めてまいります。

保護者の皆様からは給食費をご負担いただくことになりましたが、その徴収方法の検討も必要です。また、各学校の搬入口の改修など給食実施に向けた周辺整備を行いながら、任期の中で建設することをお約束いたします。

◆震災から5年の節目を迎えたところであり、町長室から見える町の光景は今、あの混乱のときを越えて、新しい防潮堤が姿を現し、災害公営住宅や自立再建による家屋の完成、そして商店街も日々の生業を取り戻しつつあり、まさに目に見える形で復興が実感できるようになってまいりました。

しかし、復興の完遂はすなわちゴールではなく、ここからが新たな山田町のスタートであります。そのための基礎となる種



復興工事が進む町の光景

まきを着実に果たし、復興後の町に大輪の華を咲かせていかなければならないと、今、意を強くしております。

あの未曾有の震災で、多くのものを失った我が山田町が、復興の困難なときを乗り越え、次の新たなステージに立つときであります。

たくましく生まれ変わろうとするこの町のために、これからの4年間、粉骨砕身、やり遂げるという強い決意を申し述べて、所信表明いたします。